バレットの学園日記

ミロンド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バレットの学園日記

【Ｎコード】
Ｎ８９１６Ｙ

【作者名】
ミロンド

【あらすじ】
色違いのピカチュウとその親友ツタージャ達のドタバタ学園生活。
この学園は“スキル”を育成すると言われたが…？

～大波乱の序章～（前書き）

誰も見てくれなくたって頑張るぞっ！！
ラ「哀れだな。」
そんな目するなぁぁぁ！！

～大波乱の序章～

ここはポケモンしかいない世界…

「…ふぅ、やっとついた…」

俺の名前はバレット。

一応ピカチュウ。

えっ？なんで“一応”かって？…色違いだからってことで納得してくれ。

バレット（以下、“バ”と省略）「ったく…あいつ入学の日に遅刻か？」

？「お～～～～い！！」

やっときた。

バ「おそいぞ、ラック。」

ラックは俺の古くからの親友。

そしてツタージャである。

ラック（以下、“ラ”と省略）「ごめん、ごめん電車に乗り遅れて…」

バ「お前電車乗らねーだろっ！」

ラ「うん。それより早く行こうよ」

スルーされた…ちょっとヘコむ

バ「あ、ああそうだな…」

今、俺達はとてつもなくデカイ学園の前にいる。

バ「噂には聞いてたがデカイな～」

ラ「そうだね～」

俺達がその学園の大きさに驚いていると…

？「おらっ！テメーら、どけっ！」

俺は後ろ向く。“俺達”じゃないのはラックは後ろ向いてないからバ「誰だ？テメー？」
後ろ向いていたのは…
リース（以下、“リ”としょ（ｒｙ）「俺はフローゼルのリースだ！ちなみに教師だっ！」
バ「教師がそんなんでいいのかっ！？」
リ「教師に向かってなんだ！」
バ「お前こそ、生徒に向かってなんだ！」
ラ「遅刻するぞ～早く行こうぜ～」
ラックの一言で
リ「今日は見逃してやるよ。せいぜいあがいてなっ！」
ムチャクチャ腹たった。１０万ボルトお見舞いしてそのまま逃げた。
ただいま入学式。包帯巻いたリースがこっち完璧睨んでる。…無視してるけど
？「では、校長のお話です。」
鳥のポケモンが壇上に登っていく。
…あれはウォーグルか。
ラ「“あれは”と呼び捨てはどうかと思うよ？」
お前はエスパーかっ！
ウォル（以下、“ウォ”と（ｒｙ）「えーみなさん
おはよう御座います。校長のウォルです」
校長は礼儀正しい挨拶をした。
ウォ「えー、皆さん多分…いや全然？もしや全く？この学園の広さに驚ろいてるかもしれません」
どんだけ自信ないんだよ！
でも確かにこの学園は広過ぎる…

ウォ「それは君達は全く気付いてないかもしれませんが能力（スキル）を育成するためです。」
あたりがざわつく。
ウォ「スキルとは“もらい火”などとは違い普通のポケモンは持ってません。まぁ詳しい事は授業で説明します。……」
その後は色々な話をして入学式は終わった
ラ「なぁ、クラス表見に行こうよ。」
バ「ん、ああそうだ…―ラ「あ、一緒のクラスか。二組かぁ～。」
ラックは呟く。…いやまて！
バ「どうしてわかるんだよ？」
平然を装い聞いてみる
ラ「いや…見えるし、クラス表。」
ちなみにクラス表と俺達の距離は１２０ｍくらい。
バ「いや！おかしいだろ！あんな離れてんのにどうして見えるだよっ！！」
ラ「視力がいいから～」
もはや視力のレベルこえてます。
バ「…ちなみに先生は？」
ラ「リース先生だね。フローゼルの」
うわあぁぁぁ……帰りたい。

しかしこれはあとからおきる大波乱の序章に過ぎなかった

～ああ、もう帰りたい。でも帰れない…～（前書き）

投稿ペースは早いから。
ラ「最初はそうだよ。大体の人は」
いや、僕の座右の銘は“前代未聞”ですから
ラ「うん、で？」
冷たいなぁ～

～ああ、もう帰りたい。でも帰れない…～

～教室内～
バ「あー、もうやだよー帰りたいよー。」
ラ「さっきからそればかりだね。」
バ「だって担任あのリースだ…」リ「“あの”ってなんだ？おい？」
ああ…来ましたか…
リ「まぁテメーの相手はあとでだ。」
バ「一人でお願いします。」
ラ「先生が悲しい人になるよ？」
リースは教壇の前に立ち、言った
リ「オメーら黙れ～、話しするから」
しかし一部は話をやめない。
リ「そーか、そうゆうことだな…」
＞リースのハイドロポンプ！！
　効果は抜群だ！！＜
バ「なんだ！このテロップぅぅ！！」
ラ「僕が作った～」
お前かよ！とつっこみを入れてからハイドロポンプを喰らったポケモンを見る…
…ポカブだ。そりゃ効果は抜群だな
リ「…チッ。おい、バレット、ラックコイツ、保健室に運べ。」
バ「なんで俺達なんだよ！」
ラ「僕はかまわないよ…金あとで請求するぞ」
ん？すげー重低音で凄いこといわなかった？

所変わって保健室

？「ん…う…ん～」
ラ「あ、起きた～」
バ「大丈夫か？」
？「う、うん。君達は？」
バ「俺はバレット。で、こっちはラック」
ハクル（以下、“ハ”）「僕はハクル。よ、よろしくね。」
ハクルは手を伸ばす。握手を求めているようだ。
バ「うん、よろしくね！！」
ラ「じゃ教室戻るぞ、委員決めてるから」
視力も凄けりゃ、聴力も凄い…のか？
ハ「うわー耳いいんだね。」
耳いいとかそんなんじゃないかと。
ラ「それよりお前、委員長になりそ…」バ「させるかっ！！」
リ「えーじゃあ委員長はバレットで…」バ「いいわけないだろうがっっっ！！」
ハ「はぁ…はぁ…つ、疲れた…」
ラ「ん？そうか？」
視力も聴力も体力も凄いラックさん
リ「…っち。めんどい事押し付けようと思ったのに…」
バ「テメー…ハァ…ハァ…ふざけ…ハァ…んなよっ！ハァ…ハァ」
ラ「ハァハァうぜぇ。」
？「僕が委員長やります！！」
リースとバレットが取っくみあいになりそうになった時、彼は言った。
リ「ん？ああ…じゃあお前委員長ね」
そうして1日が終わった。

…後日

リースの家に封筒が届いた。

リ「何々？“お手つ代”…ふざけてんのかぁぁぁっっっ！？」

～ああ、もう帰りたい。でも帰れない…～（後書き）

～登場ポケ紹介！！～
今日はラック君で～す。
バ「何で俺じゃないんだっ！」
はい、無視無視～
ラック　♂　ツタージャ
スキル　？
視力聴力体力ともに異常。
バレットの親友。のんびりとした性格だが
案外隙がない。

まぁ最初だしね。ここまで
ラ「次回もみてくれよ～」
バ「俺が言いたかったぁ～！」

～寮生活のはじまりとハクアの後悔～（前書き）

バ「お、俺のキャラが…やっと…！」
ラ「僕と一緒だけど。」

～寮生活のはじまりとハクアの後悔～

俺は重い足取りで学校へ向かう。
…重いというのは気分ではなく荷物。
今日から寮生活のため、荷物が沢山ある。
バ「なんで、自分で持ってこなきゃいけないんだよ！」
ハ「あはは、そうだね…」
ハクアは死んだ目をしながら笑う。
なのにラックはというと…
ラ「お～い、遅いぞ～遅刻するぞ？」
殴ってやろうと思ったが荷物が重過ぎるのであとでぶん殴ってやる。
ハ「…や、やっとついた～…」
俺達は校門の前で座る。すると…
？「君達！そこで座らないで自分の部屋にいって整理しな！」
委員長のサンダース…ナムルが言う。
…え？美味しそう？じゃあ喰え。
バ「お、重過ぎるだもん…」
ハクアも頷く。
ナムル（以下“ナ”）「重いのはわかったから早く行く！」
俺達はしぶしぶ寮にむかう。
ハ「ところで部屋割りはどうなってるのかな？」
ハクアが質問するとラックは
ラ「僕が３０２、バレットは３０４でハクアは３０３だね。」
つっこまないモン！
ラ「何そのキャラ。引くよ？」
もう２０m引いてるんだけど？
ハ「隣同士でよかったね！」

ハクアはきにせずそう言う。
バ「あ、ああそうだな。とりあえず寮に行こうぜ…」
この重過ぎる荷物を早くおろしたいからだ
ラ「そうだね。あそこだよ。」

バ「ふぅ～…片付け完了。」
ラ「よく言うよ。てつだってもらったくせに。」
ラックは言う。
バ「と、ところで一人一部屋なのにでかいな～。」
ラ「ごまかすな。まぁ確かに広いけど。」
ピーンポーン。部屋のチャイムが鳴る。
バ「はいは～い、今でま～す。」
出ると、そこにはハクアがいた。
バ「お、ハクア。どうしたんだ?」
ハクアは何故かうつむいている。
ハ「……だっ…」
バ「え?な、何?」
ハ「掃除…手伝って…くれない?」
バ「いや、いいけど…」
俺達はハクアの部屋へ向かう。すると…
ラ「うわー…。どうしてこうなった?」
それもそうだ。ハクアの部屋は炭だらけだ
ハ「窓開けたら、強い風がふいて…葉っぱが沢山部屋に入って…燃やしたら…」
お前はバカかっ!俺達はしょうがなく掃除にかかる。ラックが一番やってたけど。
～２０分後～

バ「ふ～…終わったな。」
ハ「あ、ありがとう。」
バ「いいってことよ！」
ラ「調子のりやがって。あとで裏庭こい」
いや、すみませんでした。本当に調子のりました。
バ「掃除してたら腹減ったな～。」
ハ「うん、じゃあ食堂行こう。お礼として
奢るよ。」
バ／ラ「え、いいの？やったー！」
この時、ハクアは気付かなかった。
こいつらに奢ると大変な事になると…

バ「うわー美味しそうだな～」
ラ「学校の中に商店街か…凄いな～…」
ハ「じゃあ何食べる？」
色々悩んだ挙げ句焼き肉にした。
ハ「朝に焼き肉って…」

～ハクア視点～
僕はただいま後悔してる。だって目の前には、これでもか！という
位の皿が積み重なっている。勿論原因はラックとバレット
ハ「ラックもバレットも大食いなんだね」
正直言って胸焼けしてきた。
バ「モグモグ…うまうま。」
ラ「おいしー。あ、上カルビもう一皿。」
特上じゃないのはぼくへの心遣いですか？

バ「あー食った食った。」
ラ「美味しかった～。」
こうやって気楽に言ってるが…
店員「２０万５６８０円です。」
高っ！ちょうど持ってたけど高っ！！
もうこいつらに奢るとか言っちゃ駄目だ。
今日から生活費切り詰めなきゃ…

～寮生活のはじまりとハクアの後悔～（後書き）

なしっ！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8916y/

バレットの学園日記

2011年11月27日14時52分発行